

令和7年度 優秀映画鑑賞推進事業
門司市民会館まつり 第15回「門司シネマフェスタ」



振り返る

戦後まもなく…新しい時代の夜明けを感じさせる名作ヒューマンドラマ



35mmフィルムで楽しむ
門司なつかしの映画祭

上映：令和7年**11月15日**

土

開場 10:00 開演 10:30

「わが青春に悔いなし」 監督：黒澤明
出演：原節子、藤田進、大河内伝次郎
10:30～12:20

「帰郷」 監督：大庭秀雄
出演：木暮実千代、佐分利信、津島恵子
13:00～14:44

上映：令和7年**11月16日**

日

開場 10:00 開演 10:30

「戦争と平和」 監督：山本薩夫、亀井文夫
出演：池部良、岸旗江、伊豆肇
10:30～12:10

「安城家の舞踏会」 監督：吉村公三郎
出演：原節子、滝沢修、森雅之
13:00～14:29

1日券 前売 1000 円 (映画2本+日替わりの小さなお弁当)
当日 800円 (映画2本鑑賞のみ)

■当日お弁当を数量限定で販売いたします。

■当日券・招待券でご入場の方は映画鑑賞のみとなりますので、お弁当は別途お買い求め下さい。

前売券お取り扱い

門司市民会館／若松市民会館／小倉井筒屋プレイガイド
北九州芸術劇場プレイガイド (リバーウォーク北九州 5F)
下関市生涯学習プラザ
電話予約 (門司市民会館 093-321-2907)

会場：北九州市立門司市民会館

JR 門司港駅より徒歩13分／西鉄バス「レトロ東本町一丁目」より徒歩5分／「関門トンネル車道口」より徒歩3分
※駐車場の数に限りがありますので、公共交通機関をご利用下さい。

〔主催〕 門司市民会館／共同企業体グループ A2K／北九州優秀映画鑑賞推進事業実行委員会／国立映画アーカイブ 〔特別協力〕 文化庁／一般社団法人日本映画製作者連盟
全国興行生活衛生同業組合連合会／松竹株式会社／東宝株式会社／東映株式会社／株式会社 KADOKAWA 〔後援〕 北九州市／北九州市教育委員会
お問合せ：北九州市立門司市民会館 (9:00～22:00) 北九州市門司区老松町3-2 TEL 093-321-2907 www.g-a2k.com/moji

令和7年度 優秀映画鑑賞推進事業
門司市民会館まつり 第15回「門司シネマフェスタ」

わが青春に悔なし [1946年 東宝]

11/15 (土) [上映時間 10:30 ~ 12:20]

白黒/スタンダード/モノラル/110分

【監督】黒澤明 【脚本】久板栄二郎

【出演】原節子、藤田進、大河内伝次郎、杉村春子、三好栄子、河野秋武、志村喬



黒澤明監督の戦後第一作。京大事件とゾルゲ・スパイ事件を元に、帝国主義に立ち向かう1人の女性の生きざまを描く。

日本が戦争へと向かっている時代・1933年(昭和8年)。大学教授の娘・幸枝(原節子)は、学生たちのマドンナだった。父の教え子であった野毛(藤田進)と糸川(河野秋武)は幸枝に思いを寄せるが、野毛は反戦運動に身を投じ、糸川は取り締まる側の検事にと正反対の道を選ぶ。幸枝は野毛に惹かれ結婚するが、野毛は国際スパイの汚名を着せられ検挙されてしまう…。黒澤明が戦後GHQの検閲と闘いながら作った作品。原節子が自ら信じる道を逞しく生きる芯の強い女性をのびのびと演じ、小津安二郎作品とは違った魅力を発揮している。「キネマ旬報」ベストテン第2位。

帰郷 [1950年 松竹(大船)]

11/15 (土) [上映時間 13:00 ~ 14:44]

白黒/スタンダード/モノラル/104分

【監督】大庭秀雄 【脚本】池田忠雄

【出演】木暮実千代、佐分利信、津島恵子、三宅邦子、山村聡、柳永二郎、徳大寺伸



第二次大戦中のシンガポール。料亭のマダム・佐衛子(木暮実千代)は、軍の金を使いこんだ罪を背負って逃亡していた守屋(佐分利信)と出会い一夜をともにするが、佐衛子は守屋を裏切る。戦後、隠れるように帰国した守屋を待っていたのは変貌した日本だった。佐衛子は守屋の帰国を知り、ひそかに近づいていく…。

「長崎の鐘」「君の名は」などで知られる大庭秀雄監督の代表作。原作は大佛次郎の新聞小説で、戦後復興期の世相を背景にしっかりと情感をたたえた、日本映画の名作である。鎌倉、京都のロケーションの美しさは印象深く、中でも、京都の苔寺で守屋と娘・伴子(津島恵子)が対面するシーンは流麗でドラマティックな名場面といえる。「キネマ旬報」ベストテン第2位。

戦争と平和 [1947年 東宝]

11/16 (日) [上映時間 10:30 ~ 12:10]

白黒/スタンダード/モノラル/100分

【監督】山本薩夫、亀井文夫 【脚本】八住利雄

【出演】池部良、岸旗江、伊豆肇、大久保翼、大久保進、菅井一郎、島田敬一



戦争が生んだ男女の悲劇を描いた、終戦直後の日本映画を代表する一本。夫・健一(伊豆肇)の戦死公報を受け、幼子を抱えた妻・町子(岸旗江)は、夫の友人・康吉(池部良)と再婚する。しかし、度重なる空襲により康吉は精神に異常を来たしてしまう。やがて敗戦。そこに中国で捕虜として命拾いをした健一が帰国し、三人の間を新たな悲劇が襲う…。

「上海」の記録映画作家・亀井文夫が山本薩夫と組んで作った初の劇映画。池部良の熱演、またドラマの中に亀井の記録映画「戦ふ兵隊」の一部を組み込み、戦地、戦後日本の姿をリアルに描いた映像など、見ごたえのある大作となっている。GHQによる検閲により30分以上が削除されたものの、観客・批評家から高く評価された。「キネマ旬報」ベストテン第2位。

安城家の舞踏会 [1947年 松竹(大船)]

11/16 (日) [上映時間 13:00 ~ 14:29]

白黒/スタンダード/モノラル/89分

【監督・原作】吉村公三郎 【脚本】新藤兼人

【出演】原節子、逢初夢子、滝沢修、森雅之、清水将夫、神田隆、空あけみ、津島恵子



安城家は代々の名門華族。しかし第二次大戦終結とともに華族制度は廃止され、没落の一途をたどっていた。財産を失い、ついに家屋敷までも手放す時を迎えようとしている。かたくなな態度を崩さない当主の忠彦(滝沢修)、女とピアノが好きな放蕩息子の正彦(森雅之)、気位だけ高い長女・昭子(逢初夢子)、冷静でしっかり者の次女・敦子(原節子)。安城家では最後を飾る舞踏会が催される。多くの客が訪れ、広間では華やかな舞踏会が開かれるが…。

華族を象徴する舞踏会を背景に人生の悲愁をとらえた、新藤兼人脚本による吉村公三郎監督の代表作。登場人物それぞれの思惑と没落していく華族の姿が見事な映像テクニックでつづられていく。「キネマ旬報」ベストテン第1位。